

## 《Lesson 4》 It △△ of ◇◇ to □□ の文

ここで学ぶのは "It △△ of ◇◇ to □□" とは、「□□するなんて、◇◇は、△△です」と主に訳される形です。"It △△ for ○○ to □□" は、It の後で「物や事」について説明するのに対し、"It △△ of ◇◇ to □□" は、It の後で「人」について説明します。

### 《 It △△ of ◇◇ to □□ 》

(1) 意味：「□□するなんて、◇◇は、△△です」

(2) "It △△ for ○○ to □□" との違い

(a) "It △△ for ○○ to □□" = It の後で「物や事」について説明する形。

(b) "It △△ of ◇◇ to □□" = It の後で「人」について説明する形。

\*そのため、It の後 (△△) には、人を修飾する「形容詞」が入る。

<例> **It** was smart **of** you **to** bring your computer.

(あなたのパソコンを持って来るなんて、あなたは賢かったです)

(3) 否定文の時は、どこを否定しているのかしっかりと見極める。

<例> It was kind of him **not** to leave without you.

(あなた抜きで出発**しない**なんて、彼は優しかったです)

It was **not** kind of him to leave without you.

(あなた抜きで出発するなんて、彼は**優しくなかった**です)

"It △△ of ◇◇ to □□" の に使用される形容詞の例			
kind / nice	優しい	honest	正直な
rude	無礼な	polite	礼儀正しい
stupid	愚かな	smart	賢い

### It △△ of ◇◇ to □□

(□□するなんて、◇◇は、△△です)

<例> **It** was smart **of** you **to** come here early.

(ここに早く来るなんて、あなたは賢かったです)

**It** was not nice **of** her **to** ask that question.

(その質問をするなんて、彼女は優しくなかったです)

**It** was rude **of** him **not to** take off his shoes.

(靴を脱がないなんて、彼は無礼でした)

### 【 "It △△ of ◇◇ to □□" の文 : 作り方 】

ステップ①：日本語の「～するなんて」の部分を "to □□" (to不定詞) の形にする。

ステップ②：「誰についてのこと」なのかを見つけ "of ◇◇" の形にする。

ステップ③：その人が「どういう人」なのかを見つけ “It △△” の形にする。

ステップ④：“It △△ of ◇◇ to □□” の形にする。

<例1> 「ここに早く来るなんて、あなたは賢かったです」

ステップ①：日本語の「～するなんて」の部分を “to □□” (to不定詞) の形にする。

～するなんて：「ここに早く来るなんて」 = to come here early

ステップ②：「誰についてのこと」なのかを見つけ “of ○○” の形にする。

誰：「あなた」 = of you

ステップ③：その人が「どういう人」なのかを見つけ “It △△” の形にする。

どういう人：「賢かった」 = It was smart

ステップ④：“It △△ of ◇◇ to □□” の形にする。

It was smart of you to come here early.

<例2> 「彼の靴を脱がないなんて、彼は無礼でした」

ステップ①：日本語の「～するなんて」の部分を “to □□” (to不定詞) の形にする。

～するなんて：「彼の靴を脱がないなんて」 = not to take off his shoes

ステップ②：「誰についてのこと」なのかを見つけ “of ○○” の形にする。

誰：「彼」 = of him

ステップ③：その人が「どういう人」なのかを見つけ “It △△” の形にする。

どういう人：「無礼だった」 = It was rude

ステップ④：“It △△ of ◇◇ to □□” の形にする。

It was rude of him not to take off his shoes.

**ポイント！ “It △△ of ◇◇ to □□” の“to”も省略できる**

“It △△ of ◇◇ to □□” の文も、すでに主語がわかっている場合や言葉の重複になる場合は “to □□” を省略して “It △△ of ◇◇” で使われることがある（ただし、“It △△ of ○○” の場合、シンプルなbe動詞の文で同じことが言えてしまう場合も多いため、そこまで頻繁には使われない形）。

<例> Did you come here early? It was smart of you.

(あなたは早くにここに来たのですか？ ここに早く来るなんてあなたは賢かったです)

**\*It was smart of you.よりも You are smart.の方がよく使われる。**

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。